

## 園だより 12月

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる」

マタイによる福音書 1章 23節

11月でも20度超えの日があった今年の秋。子どもたちにとっては穏やかな日差しの中、背中を伸ばし、伸び伸びと秋を感じる園生活が過ごせたひと月であったと思います。

幼稚園ではアドヴェントの日々が始まっています。お部屋の雰囲気が変わり、毎日守られる礼拝を通して子どもたち一人一人は今年も神様の愛を感じ、神様からの贈り物イエスさまのお誕生を、みんなで喜び合えるクリスマスを待ち望んでいます。その様な環境の中、子どもたちの園での生活、遊びの日々は変わる事無く繰り返されています。先日、3年保育希望の女の子が体験にみえました。年長組のお部屋をご案内しお母様とお話をしながら女の子を見守っていましたら、その子は年長児たちが作った大型積木の基地に物怖じせず加わっていきました。高く積んだ積木基地を登り進みます。年長児たちは見守ります。暫く基地で遊んでいましたか、降りたくなった様子でした。基地の形はどんどん変化しています。女の子の足元には登って来たときの階段の様なものはありません。女の子はその場にたずみました。一人の年長児がその女の子の様子に気づいたようでした。すると、至極自然にその子が降りようとしているところに積木で階段を作ったのです。女の子はその階段から降りお母さんの元に戻ってきました。時間にして数分の出来事でした。年長児の表情は「作ってあげたよ」感もなく、いたって普通の様子でした。気付き、相手の想いに心を留め、自分ができることを頭の中に回らし、行動に移したのでしょう。その数分の中にどれだけの年長児ならではの豊かな成長の証があったことでしょうか。

園生活で大切に思い、日々の保育で願い続ける子どもたちの心の育み、ちゃんと目にも見えているのです。見過ごさず、見落とさず、心の育みを見極める目を持ち子どもたちと過ごしていたなら。

11月の東京YMCA保育者全体研修会でも「保育者の眼差し」がテーマでした。子どもたちの「遊びの中の学び」に目を注ぎ、心を寄せ過ごす子どもたちとの毎日、その大切さに改めて心した研修となりました。豊かで想い深く繰り返される12月の日々、短い日々ですが、保護者の皆様と想いを共に見守り、嬉しいクリスマスを迎えられますことを願います。

園長 駿河 幸子